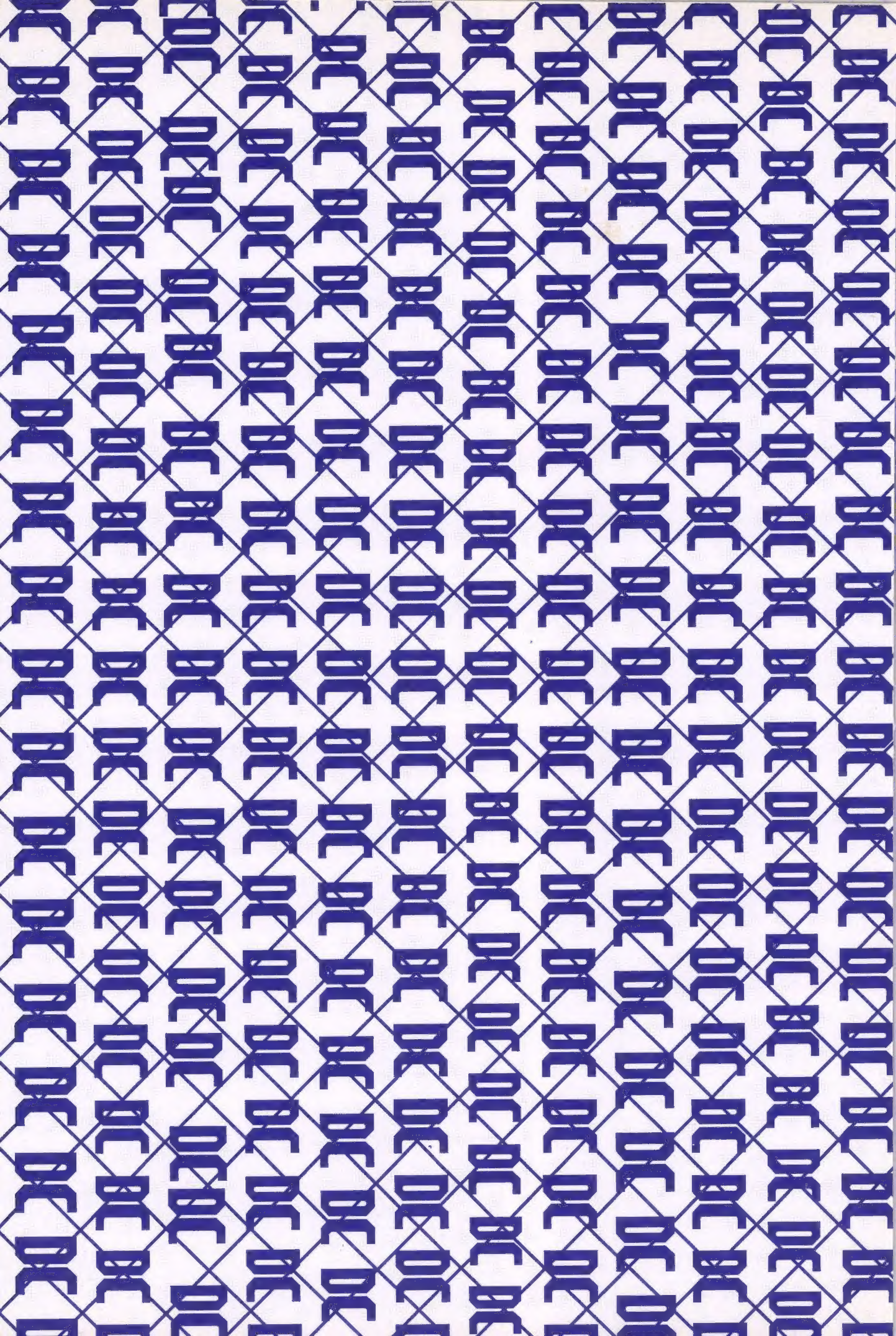

Kanon
カノン
2
作画 森嶋プチ
原作 Key



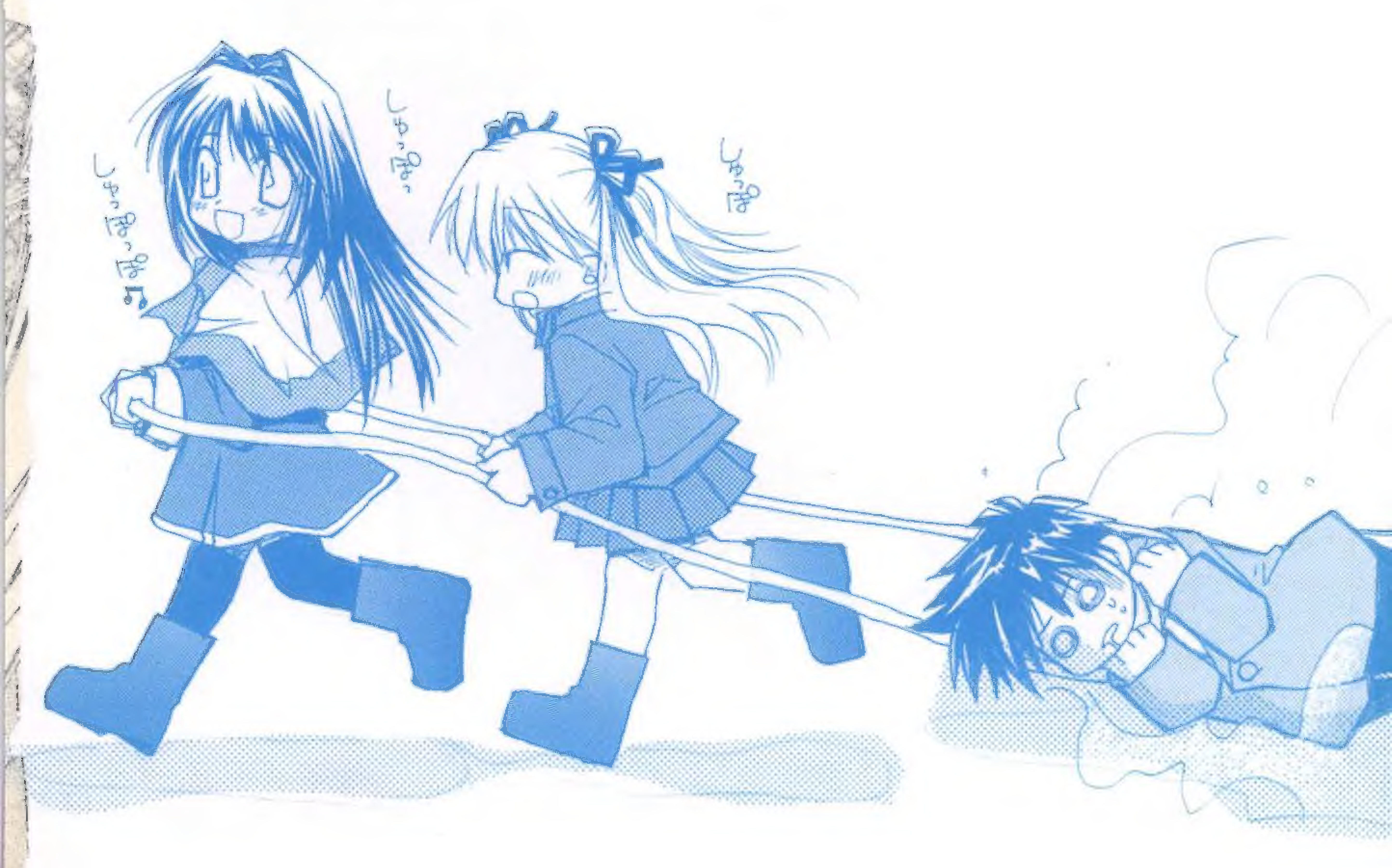


Kanon ②

MorishimaPetit+Key

CONTENTS

ORIGINAL WORK BY Key × ARTIST BY Petit Morishima



CHAPTER-3 Mai Kawasumi




ゆ――いちっ ちょっと いいかな？
ガチャ……
名雪 どした？
んとね
この間 祐一に貸した ノートね 返して もらえるかな？


あれ？ノートなんて俺借りていたっけ…?!
ほほほ…
ガーン
!?
だだってこの間さー祐一こんな…
名雪〜〜今の時間寝ちゃったからノート貸して〜
ん〜〜仕方ないなァ
はわわわわわわ
あ！そっかそっか思い出した!!
んな事あったっけ
んもう忘れないでねはい返して——
ない！
キッパリ
え…っ
実はあのノートは今学校にあるんだ…
ええ——っ?!


う〜〜〜 どうしよ… 困ったな
〜〜〜〜〜
わかった、名雪 ちょっと 待ってろ
今から 学校行って
ノート 持ってくる からさ
えっ えっ でも もう遅いし 寒いし 悪いよ〜〜〜
いいよいいよ ないと困るだろ?
ホラ 俺 着替えるから 出てて
──うん
なっ
パタン


それじゃ
秋子さん
ちょっと
出てきまーす
はーい
うひーーーっっ
やっぱ 夜は
冷えこみが
キツイなぁ…
ちょっと
格好つけた
自分に
後悔……
ひゅうぅっ
ふわっ
寒いから
マフラー
してった方が
いいよ
ね？
祐一


おサンキュ名雪
……ってその格好
えへへ
私もついてくー学校
夜食買いに行くついでに丁度いいなーっておもって♡
一人で夜中に出かけるの恐いしね
ったく…
夜食なんか食うと太るぞー
うーーっ
いいもん！運動するんだからー



なんでこんな簡単に侵入出来ちゃう訳？
——しかし不用心な学校だなぁ
う——ん そ…だね
でもさ おかげで ノート取ってこられたんだしさっっ
まーね
NOTE BOOK
えへへへ めでたしめでたしー
ったく お気楽な ヤツめ…


まいいや
早く帰ろうぜ
名雪
たたたた
あうん
誰かに
見つかりでも
したら――
面倒
だから…な


!!
制服?!
3年…?
わーっ わーっっ
どうしよ?!
こんな所に
人が――っっ
祐一――っ
おーこーらー
れーるー!!
ま 待て!
落ち着け 名雪!!
きっと話せば
解ってもらえる!
わたわたわた
あの――
スミマセン…
俺達…そのぉ
忘れ物を取りに
来ただけ
なんですけど――…



だから…そのっ
それだけで
ですね
こくこくこくこく
俺達
決して
怪しい者では
なくって…
チャッ
…………
!?
わ――っ
ごめんなさい
ごめんなさい!!
殺さないで~~~
ぎゃ――!!
ジリッ


何でもしますから
ぎゃー‼
……………


…………
──もう
いない
──大丈夫
えっ?!
あの……っ
私は
一体…?!
魔物を
討つ者
だから


そう言い残して消えた女の子との出会いは
俺と名雪にとっては夢でも見ていた様な気分で
消えた…？
コワイよ〜 早く帰ろうよ〜
翌日になってもピンとこないままだった
あ— 祐一 待って〜〜〜 置いていかないで〜〜〜
私もお昼一緒に行くよ〜
……


いたーいっっ
何すんのー?! ひどーい！
ひどいのは名雪の方だろっっ
ええ?!
折角夕べノート取りに行ったってのに当てられて答えられなきゃ何の意味もないじゃねーか!!
授業中
水瀬さん答えて
わっ解りませーん
解けないの? それならあなたも立ってて
んじゃ隣りの相沢君
そのせいで俺まで当てられてさー
!?
いやぁアレはまいったよねー
でへへ
他人事にすんなっっ
だって！祐一が答えられないのって私のせいじゃないしー!!
なんだとー?!
わっ
!?
ちょ…っ待って祐一!! 今…っ


あの人
昨晩の…!
何?!
ホラ
あそこ!!
あっち
行っちゃうよー
本当だ
…オバケじゃなかったんだな――…
ちょい残念
…そだね
よし! 追って話してみようぜ
えっ 今から!!
だって名雪も昨晩の真相知りたいだろ?
そりゃあ まぁ…
すみませ――ん!


あのぉ 夕べ 会いました よね…？
君が 魔物を討つ者って 言ったけど 覚えて いるかな…？
…………
ひええええっ ニラんでるよ 祐一!!
落ち着け! 落ち着けって!!
黙って いられても 困るんだ けどさ
えっと 返事だけでも いいよ 「はい」とか 「いいえ」とか あるだろ？
…………
はい
なんだよー 昨晩のシリアス なのとは うってかわって 天然キャラ だったのカー?!
やなにも そのまんまで 答えなくても
いいんです けどね…


ただ俺達は昨日の…
舞ーーごめーーーん！
！
きょとん…
ちょっと他に用事あって…ってあら？
ぺこぺこ
ジャマしちゃってごめんなさい！舞のお友達ですか？
いえ
彼氏です よろしく
はぇ〜〜


あっ
そうだったんですかー なーんだ♡
やだな舞 紹介してくれなきゃ
ぜーーっ
信じてんじゃねーか! 否定しろーーっっ
ゆっさゆっさ
そうじゃない…
遅いっつの!
スミマセン 今のネタだったんです〜〜
ペコ!
あ なーんだぁ 面白い方達ですねっっ
あははー
で どういうお知り合いなんでしょう?
俺達 2年の相沢祐一と水瀬名雪っていいます
昨晩ここで彼女に会って… それで その時の事 今話してただけなんだけど…
そうだったんですかー あ 私は倉田佐祐理っていいます この子は…
川澄舞
では 折角ですから これから皆で ごはん一緒に 食べましょうか
は?!


ね？
丁度 私と舞とで
これからお昼
食べる所だったんで
みんなで食べましょ♡
お弁当いっぱい
作ってきてるし！
ちょ…
話
つながってないん
ですけど…
良いアイディア
ですよねっ
我ながら
ねっ 舞？
聞いて
ます…？
それじゃ
行きましょ
わ〜
いいのかな〜？
ズルズルズル
ま…いっか
とりあえず
ぷは〜っ
いや——
食った
食った♡
ほえ——
祐一さんは
口が
お上手
ですね——
いや
マジで！
うまい♡
本当
ですか——



な？
そう思うよな？
ほわわん
……………
黙…
まーった
ホラ！ちゃんと
意思表示
しなきゃー
ダメだろ!!
折角
作って
くれてるん
だからさ！
じゃあさ
どれが美味しかったか
言ってみろよ
ホラホラ
…タコさん
ウィンナー
タコ
さん…？
うん
あははーっ
じゃあ また
作ってあげるね
舞♡
……うん
そんなんで
いいのか?!
佐祐理さん…
つーか
俺達はこんな所で
遠足気分で
浮かれてて
いいんだっけ？
いや
本当は
昨晩の事とか
聞く予定
だったハズ
だけど…
でも 今は
美味しいゴハン
食べられたから
「よし」としよう…

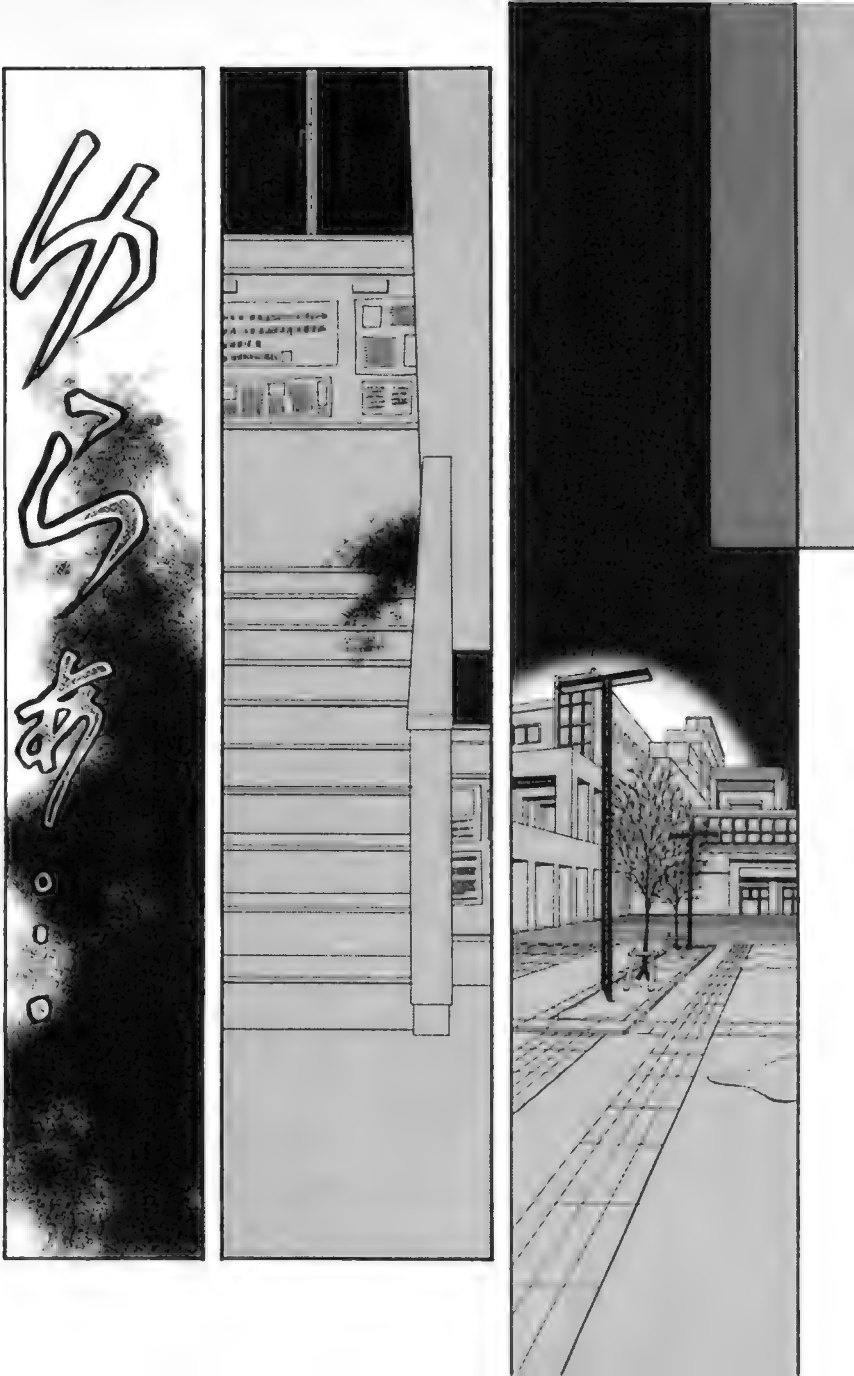

てな訳で今晩も
よしっ！学校行くぞっっ名雪！
ええー?!
だって今日の昼間に何も聞けなかったんだもーん…
うーん 確かにそうだけど…
ね 祐一
てく てく てく
ん？
あのね 今
そういえば…って
思い出したんだけどね
舞さんのウワサ…

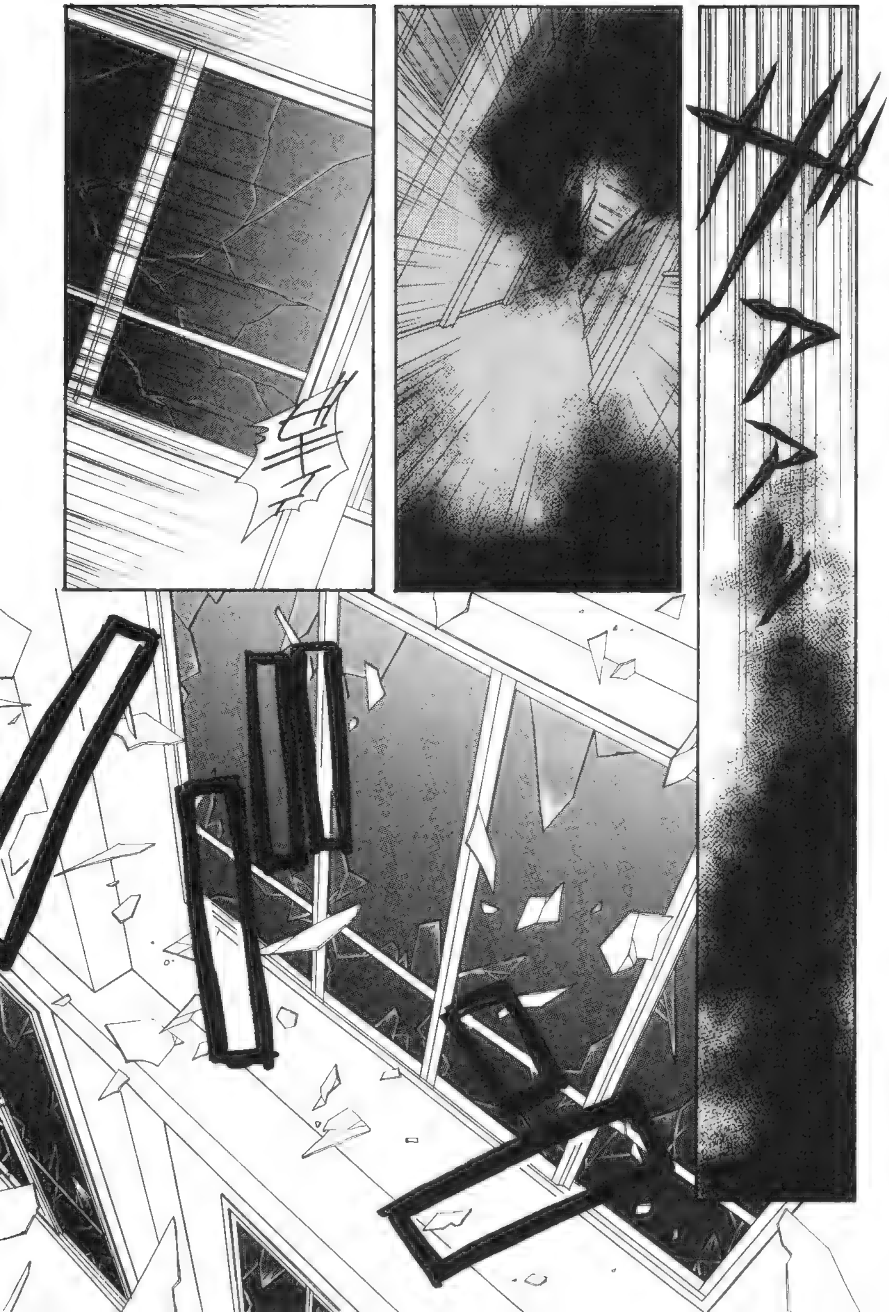

噂？なんだそれ？
うん 部活で耳にはさんだんだけど…
ねぇねぇ知ってた？先週の窓ガラス割った犯人うちの生徒らしいってよー
陸上部
あっ それ知ってる知ってる!!
それ 3年の川澄舞らしーよ
うっそまた?!
部室はキレイに使おう!
ええー?! それって激ヤバじゃんよ
でしょーっ退学モンだよー
やだぁ
あ 水瀬先輩も知ってます？この噂
あの人不良とかってウワサでー
えっ?! えーと… 私 3年って詳しくなくて解らないなー
そっかー
そんなのただの噂だし全然気にもとめなかったんだけどね
今日 名前聞いて…
この人の事だったのかなぁ…って
ばーーっか！ほつとけよそんなん


嘘だろ？俺達が気にしてどうするよ？
それにさ彼女には佐祐理さんっていい子が友達にいるしさ
タコさんウィンナー好きなんて言う奴に悪い奴はいいねぇよ
…多分な
ぷっ
あっははは
それもそうだね――祐一のいう通りだ――タコさんウィンナー説は正しいよ――
あっうわっ
なんだか今すげーバカにされた気が!!このー！
そう信じているけれど
わ――っ！あたたた…なにすんのも――！


でも噂通り
ガラスの割れた
現場に居たのは
彼女…なんだろう
ひどいよー
祐一ーー
では
学校で出会った彼女は
あの時
一人闇の中で
何と戦っていたのだろう？


今日昼に
見た彼女とは
また別な顔で
今も
一人冷たい
学校を
守り続けているのだろう
何故か
解らないけれど
俺は
そんな彼女の元へと
行かなきゃ…って
思ったんだ
よっし名雪
寒いから
走ってこーぜ！
あーーん
待ってよう〜〜


ゆらあ…


ガアアッ


パキッ
はっ
はっ
……………
ほ、


ザワ
ザワ
また 3年の
あの人が
やったみたいだよ
いつもの噂の
腹いせに
ガラス叩き
割ったとかさ
そんなんじゃ
ないのー？
ええ!?
超迷惑だよ



祐一 やっぱり 凄い事に なっちゃったね でも… 大丈夫かなぁ
舞さん…
そうだな、
俺も、今 同じ事 考えてた
昨晩 学校まで 来たものの 俺達は 彼女には 会えなかった
そこには 窓ガラスが吹き飛び 荒れ果てた校舎が あっただけで
彼女の姿を 見つける事は 出来なかった
俺達は不安を抱えつつも そのまま立ち去る 事にしたのだった



名雪 後で 3年のクラス 行ってみようぜ
うん!
キーン コーン カーン コーン…
きょーつけェ 礼!
ガタ ガタ
ガタ
はい では 今日はここまで
名雪っ 今日の お昼…
ごめん 香里 今日は用事 入っちゃったの〜
今度 埋めあわせ するから〜〜〜
…………
ぽつねん…
どたどた
なーにーっ 最近2人でつるんでばっかで つきあい悪いった〜〜〜!!
いいわよ 栞と行くわよーだ!


3-A
ふえ？
祐一さん？
こんにちは！
お2人とも
どうしました？
あ
佐祐理さん！
どーもー
ええと
今日は
そのぉ…
舞…さんの
事で そのぉ
あ ええと
あの子…
今日は
教室には
まだ来てないん
ですよ


舞が今回の事件に関係してるんじゃないか…って学校側はそう捉えていて
以前から 何度もそうやって『不良』って疑われてる舞は 今職員室で…
そんなバカな！ちゃんとした証拠も無いんだろ!?
はい 多分…
舞に限ってそんな事起こすなんて…
きっと何かの間違いじゃないかって…私


そうだよ 佐祐理さん
俺達の知ってる 舞は そんな奴じゃないし
それに あいつが そんな事 するとしたら
きっと何か 理由があるに 違いないよね
俺達 それを 証明出来ずに 舞が一人で 困ってるだろうから
これから 行って助けて あげたいって 思うんだけど…
!
そ…っ そうですよね! そっかあ あはは——っ
私 気付かなかった! 舞の所へ行けば 手助け出来るかも しれないんですよね! そうですよね
私もんもんと しちゃってて…
よーし! そうときまったら 行くぞう!!
おーっ


でも職員室なんてキンチョーするなァ
祐一 今更なに言ってんのも——
あははーっ
大丈夫ですよ祐一さん
そ…そっかなー
あははは
あれ？倉田さんじゃないですか
こんな所でどうしたんですか？
！
久瀬…さん！
舞…も


丁度よかった! これから川澄さんを連れて
あなた方のクラスまで行く所だったんですよ
あら そうだったんですか
職員室まで迎えに行く手間が省けてよかったわ
やれやれ…相変わらず冷たい態度ですね倉田さん
僕はせっかく送りながら川澄さんの処分についての話でも…と思っていたのにな…
処分…!?
舞は!? 舞は一体…!? 久瀬さん!!
ガバッ
私は大丈夫


ただの
厳重注意
だから…
…心配掛けて
悪かった…
そうか！
よかったな
舞!!
舞ー！
わぁい
よかったぁ
浮かれるなよ
川澄
それだけじゃ
なかっただろう？
僕がまた
庇ってやったから
こうして注意で
済んでいるんだ
生徒会の僕の
監視付って
条件でね
し…ん



それをよーく
覚えておいた方が
いいよ
それじゃ
僕はこれで
ぱたん
な…っ
誰だよアイツ
すんげー
ムッカつく~~~~!!!
くゎーん
生徒会の人間だか
なんだか
よく知らねーけどさ
勝手に実権
握った気に
なってんじゃねーのか!?
アレは!!
ゆ・ゆーいち…
ぺっぺっぺーだ!



つーか！
佐祐理さんも
あんな嫌な奴と
つき合い持っちゃ
ダメでしょーが
はい
ほえ？
わかりました！
気を付けますね
そうそう
いい子だね～
佐祐理さん
なで
なで
きゃあああっ
悲鳴!?
きゃああ！
うわぁっ
逃げろぉっ
犬だぁっ



な…っ
何事だよ
この騒ぎは!?
ううっ
わかんないよー
祐一〜〜
犬だぁ…
へ？
犬…？
チャッ
チャッ
!!!
ハッ
ハッ
ハッ
ハッ


わ！
うわわわ～～っ
祐一！
犬！イヌ
いぬ～～～っ!!!
だーっ
おわっ
名雪
ずり!!
…お前
こういう時だけ
妙に足が
早いな…
ニヤかったしー…
えへへへへ
えへへ…
これでも陸上部
部長だからね
それはそうと
あの2人と
はぐれちゃったけど…
ガサ
大丈夫
かな…
って――…!!
舞…!!

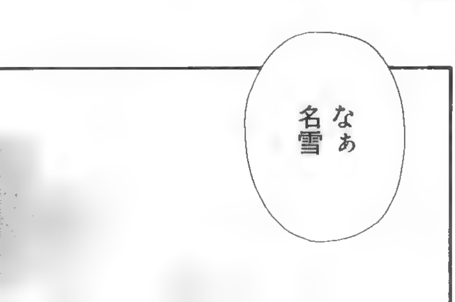

やだ…！
危ないよ!!
ペロ
クン クン
ペロ…
ペロ
ペチャ
ハフッ



何故 舞は こんなに悪く 周りから言われなくてはいけないのだろう



本当は　　本当の舞は――




えぇ?!
舞さんの『人気アップ大作戦』!?
そう!
考えたんだよ 皆『不良』って目でしか舞を見ていないじゃないか
それで何かをキッカケになんとかしてやれないかなぁって
キッカケって言ってもむずかしいよね…
!
あ そうだ! 舞踏会があったよ!!
うちの学校の伝統的な行事でね
講堂を使用して盛装した生徒達が集まって優雅に踊る催しが今度あるんだよ
こーんなカンジ
かなっ?
それ なんとか使えないかな
うん! いいじゃん! 使えるよ それでいこう!!
俺達も参加するぞ! 名雪
みんなで参加すりゃきっと楽しいぜ
よっし! 早速帰ったらあちこちに声掛けるか!
わー 楽しみー♪
私 初めて参加するよ～


RRRR…
あ 香里か? 俺だよ 祐一だけどさ 頼みがあるんだけど
(中略) てな訳で 俺達の計画に 協力して もらいたいんだ
うん そういう事なら OKよ♡
あ 栞も 一緒にって
おー サンキュ サンキュ 恩にきるよ
おーい 真琴ー
水瀬
なーにー?
綺麗な服着て 美味いモン 食べに行く気とか あるか?
わぁい! 行く行く!!
ばんざ〜い
あ それなら 制服じゃないし 秋子さんも いかがですか?
了承
えっ お母さんも!?
それじゃ 祐一さんも はりきった服に しましょうね
えっ 俺は いいですよ そんな
あはは 祐一 こういう時は 頑張っちゃいなよ〜〜
そして——


生徒会主催
舞踏会
舞踏会
当日——



わぁ…！
お櫛が……
ガヤ
ガヤ
なんだか学校じゃないみたいだねー
ちょっと気後れする2人
お・おう
でも 舞の人気者作戦は実行しなきゃだぜ…



ふふっ
あなた達も今日はきまってるわよ
!
あ
秋子さん!!
…とその仲間達つつーか
きたよーん♡
わーい 祐一さぁんっ♡
わーっ みんな来てくれたんだ♡
サンキューなー
たまにはこういうのも面白くていいじゃないの
それでお友達の舞さんはどちらに?
あそっか 実はまだ俺達も会えていなくって――
キョロキョロ
えーと どこに…
あ


あゆ!?
!
久し振りー! 祐一君 どしたの こんな所で?
みんなで オシャレ しちゃってー
たーっ
あ 俺達は 学校のイベントで…って いや あゆこそ なんでまた こんな所に いるんだよ!?
んとね ボクはね――
エヘヘ
なんか みんな 楽しそうだなー って 人の後 ついてきたら ここに着い ちゃったんだー
ああのさー ココが今日 何する場所か 知…
ホラ!
おいしい物 いっぱいだよーー 祐一君も 早くしないと なくなっちゃうよ!
くるん♫
え!? それって どこどこー!?
ドカン
おう
あ! んじゃ今 つれてって あげるよ 行こ!
わあい やったぁ♡
圧倒 されまくり…



な…なんか
アレって
いいのかな…
バレなきゃ
きっと
平気だよ
綺麗だし
あはは～
なにコソコソ
しているん
ですか？
！
はっ
佐祐理さん
と
舞!!
おおっ
ちゃんと
おめかしして
来たんだな
舞！
綺麗じゃんか
そうですよね！
ホラ よかったね
舞!!
ホメてもらえて
……
へえ
そっかそっか
ぷいん
祐一さん
舞ってば アレでも
ホントはすごく
喜んでるん
ですよ――
…ありがとう


なんだよー 舞ももっと素直に喜べばいーのにさ
うふっ
ねっ
ねぇあの人ステキじゃない
わぁ…
おっ
周りの反応が…
アレ 3年の川澄さんだよね?
よしよしよしよし!!
肌とかキレイ…
へぇ
割とイケてるじゃん
つかみはOKだぞ舞!!
俺の作戦も成功かも♡
ようし!ここは俺がもいっちょ盛りあげて…
おーい舞――
……


せっかくだからさ 一緒に踊ろうぜ
…踊り方
しらないから
大丈夫 俺も知らないけど なんとかなるって！
…と思ってるけど……
疑いのまなざし
お2人共大丈夫ですよ
こういうのは楽しんじゃったもの勝ちですから！
そうそう 何事もふぁいとっ♡だよ 舞さん
ホラ 見ていてあげるから
ポンッ
いってらっしゃーい♡



おんちゃらら〜
ぶんちゃっちゃ〜♫
♫たらり〜
たらりら♫
おわっ！
どしゃっ
ウガー！
なんだよーもう〜〜〜
…祐一が悪い
なにーー!?
わっはっは・・・・
何だあの2人
おかしー
変な踊りー
ぷくく…
浮きまくりだよ祐一達
おなか痛い
別な意味で人気作戦は成功ですね
お楽しみいただけている様ですね
倉田さん


久瀬…さん
どうです？
よろしければ
僕と一緒に
踊って下さい
ませんか？
！
…………
…直々に
お誘い下さるなんて
光栄ですわ
一曲 お願いします
ニコ
こちら
こそ
では
倉田さん
行きましょうか


わぁ…
久瀬さんよ
ステキ
ちなみにその頃の舞と祐一
うわぁぁ
!!
わはは
ずでん
どしん
流石ですね
倉田さん
いえ…
私など
大した事
ございませんわ
ハハ…
ご謙遜を
倉田さんは
素晴しい方ですよ
だからこそ
僕は——


才能も政界への繋りを持つ家庭という地位もある――
そんな貴女に生徒会へ
ググイ
再び戻っていただきたいと思っているんです
!!
なっ何を…っ!? 久瀬さんやめ…て
倉田さんが僕の力になってくれさえすれば川澄の話も
やっ離し…
バリリィン


キャーああああっ
何だ!? 何が起こった!?
くそっ 話は後にしよう 倉田!
きゃっ
キャーーッ
押さないでぇ
逃げろ!
とにかく外へ!!
何よこれぇ!?


大丈夫です 皆さん 落ち着いて 非常口へ
走らない様に お願いします
ガヤ
カヤ
押すな
痛ッ
早くしてよ!
んもー
何よう!! もっと食べていたいのー
そーだ そーだ
あーもう!!
こんな事故で なに 悠長な事 言ってんだよ
えー
だって だってさー
なによう 祐一君なんか 私達ほおって 踊ってるしさ!
ぶーー
ぶーー
うるさい うるさーい!
――祐一 来ている
…
え!?
魔物が


な……ッ
舞ーーッ


パアァア
うわあッ
う…
ぐ…


今の…
舞が…!?
!
フワ…
あれは…
舞……!!


大丈夫か？
今の…
舞が…
そっか…さっき
魔物って
言っていたけど…
ニくん
またお前
なのか!?
川澄


予想以上に
舞踏会は
楽しい空間になった
いつも表情の
読み難い舞も
佐祐理さんも
そして仲間達や
その他の参加者達も
皆 笑っていた
けれど
そんな心地の良い
夢の様な時間が――



舞…っ!?
シュウウウ……


魔物の出現によって
俺達 参加者には
悪夢の様な
現実となって
しまったのだった
何が
気にくわないんだ
川澄!?


こんな事して
どういう
つもりなんだ
怪我人まで
出す事に
なって…
不満が
あるというのなら
無理をしてまで
いる事は
ないだろう
不愉快だ
出ていって
くれ!!


そうだよ
出ていけ!
早く消えろよ
でてけ
帰れ!
でていけ!
どっかいっちゃえ
クルッ
だっ
場の雰囲気に押され
舞を庇えなかった
俺達は
彼女を追わずに
ただ黙って
家に帰る事しか
できなかったのだった…


そして
翌日
祐一
大変だよっっ
な…っ
なんだよ
俺 今日は
一人で
そんな事
言っている
場合じゃ
ないよっ
舞さんが
大変
なんだから…!!
え…っ
舞が!?


告
当学園の規律を乱
此の者、退学処分
三年
川澄 舞
ね 祐一
どうしよ!?
これって…
くいっ
舞――!!
どうするって…
俺だって今
混乱していて…


なんだって
こんな…
だって あいつは
舞は…ただの
不器用なやつなだけ
じゃないか…
舞を見ていれば
すぐに悪いやつなんかじゃ
ないって事 俺なんかだって
解るってのに…
周りで
起こった事件のみの
判断だけでさ
あいつをそういう目で
見てるんじゃねぇよ
くそ…っ!
昨日の舞踏会で
あいつに
歩み寄ってくれた人だって
いてくれたろうに…
ぽん
祐一さん


ね もし よろしければ
お昼 佐祐理と
いっしょしませんか？
佐祐理さん――！
ごめんなさいね
無理言って
おつきあい
して下さって
あ
いいんですよ
この位
すごーい
佐祐理一人で
お昼食べるのは
寂しかった
ものですから


う…う
空気が
重すぎる…
どよよ
おいっ 名雪
なんとか
この場を
和ませろよ
ええ!?
そんなぁ
無理
言わないでー
祐一こそ
なんとか
してよー
ぐおっ
痛えっつの!!
お前
ツッコミすぎ!
なにすんだ
このー
キャー!
あだだだ…
くす
はっ
あわわ…
ご ごめんなさい~~
しょぼぼ…
あ いいんですよー
お気になさらずに♡
佐祐理は
大丈夫ですから
ねっ!?
……


ね 佐祐理さん
また前みたいに
こうやって舞と
一緒にお昼しようよ
俺達に黙って
学校を後にした
舞には正直…
なんで一言も
なかったんだよ
くそっ！
…って思ったりも
するんだけど
でも俺
そうは言っても
結局 舞の事が
好きだからさ
皆で舞を
連れ戻せない
かなぁ…って
なーんて
ちょっと
はずかしい
かも…
てれてれ
あ…ははは
奇遇ですね
祐一さん
佐祐理も
今日 ずっと
同じ事考えて
いて……


で…っ では
どうしましょうか？
佐祐理も
舞の事
大大大好き
ですから
早く目の前に
戻ってきて
欲しいです
うんっ
頑張ろーぜ
はーいっ
頑張り
ましょーー！
あはは


とはいったものの
どうしたらよいのかしら…？
佐祐理達が立ち向かうにはとてつもなく大きな問題だから…
※佐祐理
その① 職員室になぐりこみ
その② 佐祐理さんの色仕掛で校長に迫る
その③ 祐一の色仕掛で……
以下略
どんどこ
どんどこ
なのにっっ祐一さんってばこんな事ばっかり言ってー!!
佐祐理にできる訳ないのにーー！
はっ
て


ちがうちがう!!
ふるふるふるっ
佐祐理にできる事…
佐祐理にできる事…
倉田さんが僕の力になってくれさえすれば——
川澄の話も…


倉田さんは素晴らしい方です
才能も…政界への繋りを持つ家庭という地位もある
そんな貴女に生徒会へ
再び戻っていただきたいのです
……………



倉田さん
ふ…
お友達の件で困っている様子だね
僕でよければ相談に乗ろうか？
…………


署名にご協力下さ——い
3年の川澄舞さんの
復学の署名にご協力下さ——い
お願いしまーす
どうぞよろしくお願いしま——す


キーンコーン……
祐一 行こ?
……おう でも もう少しだけ 充電させて…
祐一体力ゲージ
祐一 ふぁいとっだよー
あ
まだ少ねーなー
そういえば さー―
最近 佐祐理さん 見ないけど どうしたんだろ?
ん?
佐祐理さんは 私達の知らない所で もんのすごく 頑張ってるんだよ
皆さまー
倉田佐祐理が最後のお願いに参りました
きっと!
だから祐一も 負けずに 頑張って!!
私もやるよっ
どしどし
お…っ
わわかった わかったってー
ふぁいとっ ふぁいとっ
!!



ま…っ
舞っ?!
お前 一体 いつから——
?! 佐祐理…さん?!
えへへ—— とりあえず お祝い しません?


しかし 一体どうやって 戻れたんだよ？
今日から 学校来ても いいって
お！丁度4人分
いや…だから その理由を だな――…
………
んと
祐一さん達の 署名運動の 成果なんじゃ ないですか？
え?! だって アレは そんな
………
ごにょごにょ
う…うん
肩身せまー
あはは――っ
いいじゃないですか こうして 舞が 戻れた事ですし
またみんな いつも通り ですよ♡
そ…っ そうだな
あー 祐一 さっきまで ヘバってたのにー
うッ


放課後。
――んとね それで祐一は 罰として 今日は一人で 教室の 掃除当番 なんだよ…
だから うちらは先に 百花屋へ 行って――
生徒会より 生徒の皆さんへ 報告致します
本日 生徒会の 緊急会議で 我らが生徒会に 新たな メンバーが 加わりました
!?


ガラッ
祐一!
佐祐理さんが
大変だよー!
何だって?!
……祐一?
ほっとけ!
倉田さんは
間もなく
卒業という
身でありながら
我々と意志を
共にしてくれる
――
舞――っ



我々は彼女を名誉会員とし
卒業後も色々と――
ド…っ
待って！
ご指導していただきたく…
うわっ！


ビキィ……
な……っ
何だ?!
!?


!!
こ…
これが…
…っ
わぁっ…
あぁあ…


わぁ


……許さないから


佐祐理を悲しませたら許さないんだから!!
ひ…っ
わああ…っ
……佐祐理
す…


キョロ
キョロ
ガヤガヤ
コソコソ
コソコソ
何だったんだろうなー
おい
誰にも
みつからなかったか?
ぜは
ぜは
た
多分…
まぁ
いざとなったら
佐祐理さんが
なんとか――
ちょっぷ
あはは～っ
何するんですかー
さっきの舞
格好よかった
でも……
今回はやたらと
剣とか振りまわす
とかじゃなく
後先考えてた
もんな
お前
ヒリ
ヒリ
…佐祐理達と
もう少し一緒に
いたいから



それでは佐祐理はこれで——
ペコー!
おう、また明日な!
ばいばーい
佐祐理は昔からそうだった…
ですから!川澄さんは理由があって不可抗力でガラスを割ってしまったんです
生徒会室
にしても彼女は理由を言わない
倉田君キミが庇う理由はないだろ?


いえ
佐祐理には
わかります
佐祐理は舞の
親友ですから!!
…という話
そっか…
よかったな
舞
うん
そうだ!
今度から
イエスだったら
「はちみつクマさん」
ノーだったら
「ぽんぽこタヌキさん」って
返事するんだぞ
いいなっ 舞?
そうそう
そうやって
素直に
反応すれば
カワイイのに!
ポフ
?-?-?
?-?-?


──翌日
なぁ また来年も
舞踏会に
参加しようぜ！
みんなでさ
は… はぇ〜〜〜〜？
祐一さん… 私達
来年って もうじき
卒業なんですけど〜〜〜
さようなら〜
なーんだ
また忍びこめば
いいじゃん
ドレス姿 また
見せてくれよ
…………
で 舞は
どっち
なんだ？
くるの
こないの？
う…っ
…はちみつ
クマさん
？？？
はぇ〜〜？
なんですか
それ〜…


たったたたたたーっ
!
あれ……？
あそこに
いるのって
キョロ
キョロ
あゆじゃ
ないか…



ポンッ
よっ あゆ!!
ぎゃっっ!!
んぐ
うぐぅ~~っっ
ごめんなさい ごめんなさいー!!
これは返しますからーっっ
………
何してんの?
は、
あ…れ?
あわわわわっっ
わたたたたたっ
あっ 祐一君! 久し振りだねっ♡
ってお前 まーだ 盗んだりしてんのか!?
あせあせ
えーーっ ちがうもん!! ボク 今日は もらったんだもん!!
カ
あゆ言う所の貰うの図
あいよっ
ちょっと待っててや
じっ…
うう…
も…もう ガマンできないー!!
あっ コラ!!
だっ


ぜはーはーー・・・
あっ ねぇ そう言えば 祐一君 今日は一人で どしたの？
気をとりなおして…
あ ああ
ちょっとCDでも 買いに…って 出てきたんだけど この辺 どこに何があるか わからなくてさ
え？ 祐一君 地元じゃないの？
いや 7年前に ちょっとここに 住んでたけど でも もう ほとんど新規の 人間ってカンジかな
7年も経つと もう全然 風景も 変化しちゃうよな――
あ… そうかぁ やっぱり…祐一君 だったんだぁ
あゆ……？

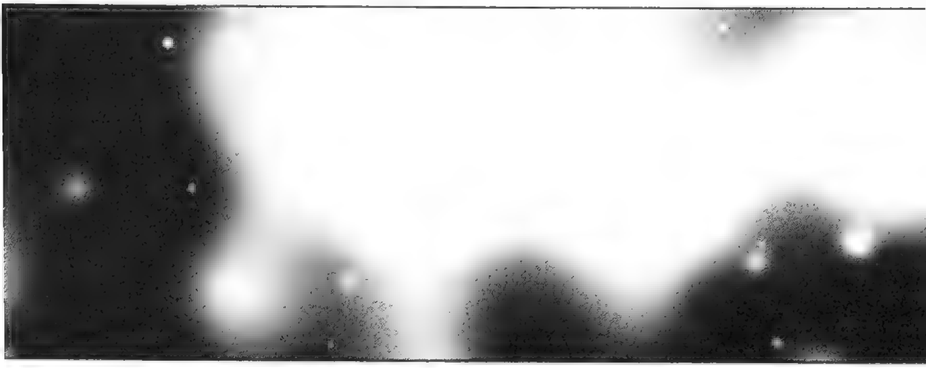

本当は…初めて会った時から
そうなんじゃないかって思ってたんだ
だって 名前 一緒…だし
それに 変な男の子…だし
昔のボクが知ってる頃の…ホント そのまんまで
帰ってきて…
くれたんだ…ね



不意に記憶の片隅をかすめた　風景



薄い記憶の中に残るのは　雪



どこかで見覚えのある　光景

夕焼けの中　泣きじゃくる女の子…



そして　さしのべる手…



その手は…　その手の主は――　そうだ…



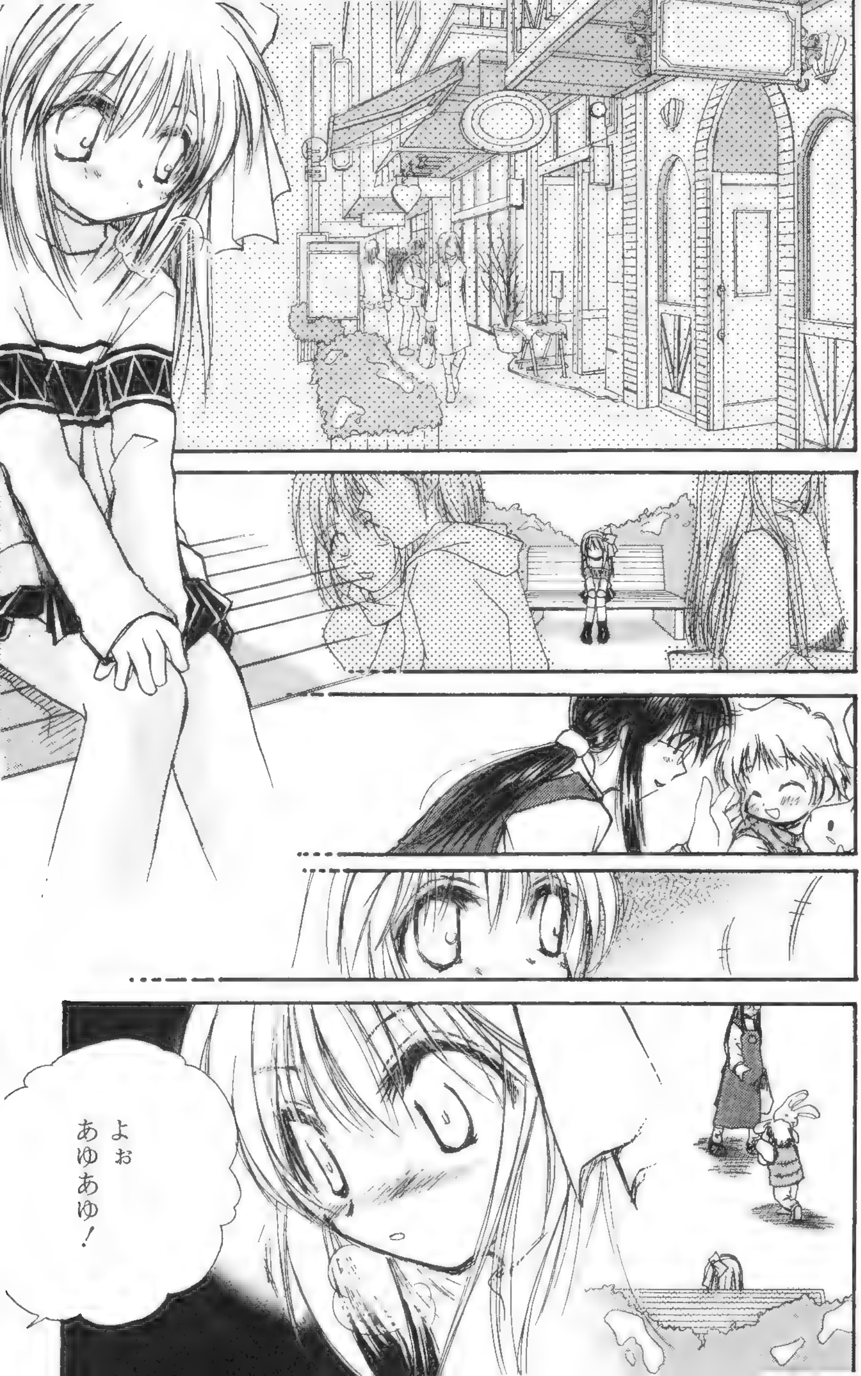

「あゆ」……
そうだ あゆ……だよな…？
ん…
うん… そうだよ 祐一君


祐一君……っ
だだ……っ
ひょい
……
うぐぅっっ
どしゃっ
わーーん ひどいよーーっっ
キラーーイ!!
わははっ
そうだ 俺は
7年前も こうやって この街で あゆと出会って いたんだ——
でも たい焼きの 金はちゃんと 払えよ!!
めっ!
ははい…

CHAPTER-4
Ayu Tukimiya




♪
ホント
かなー？


よぉあゆあゆ！


どした？ぼーっとして
ぷいっ
……ボクあゆあゆじゃないもんっ
……
すみませんあゆ様〜〜〜
おわびのたい焼きです
ヨシ
それで許します。の意。
わぁい いっただきまーす♡
どど！
ね 祐一君
ごちそうさま
ん？
祐一君はお母さんの事好き？
――好きだよ


すっ
怒られるとすっげー怖いけどさ…なんで？
うらあっ
あはは…ボクもね好きなんだお母さんの事
…でもね
ボク一人置いてお母さんいなくなっちゃったんだ…


どしたの!? どこ行くの 祐一君
俺のとっておきの場所に連れていってやるよ
あゆだけに特別にさ
行くか?
うん
連れてって
こいっ あゆ!



大丈夫か
あゆ？
う…うん
ホラ
ついたぞ
ここだよ
わ……あ


わぁ
こんな所が
森の中に
あるなんて!
あはは、
だろ?
気に入って
くれたか
?
うんっ
みてみて!
こーんな大きな木
はじめて見たよー
ほらほらっ
よかった あゆが
少しでも元気に
なってくれて…
おーい
ねっ
ちょっとだけ
目閉じて
目ぇ?!
いいから
いいから!
言うこと
聞いて!
ねっ?
ちぇ、
仕方ねーな
こうか
うん!


………
まだか？
まーだー
…………
まだなのかー？
もちょっとー
何してんだ？一体…？
そして俺も…い
もういいよー
くわっ
よっし!!
…あり？
あ…ゆ？



えへ、こっちこっち上だよーー
上?!
きゃーーっっ
?!
な…っ?! バカ! 危ないだろっ 早く降りてこいよ
ええー? 大丈夫だよ 登っておいでよー
すごいここ 良い景色だよー
聞いてるのかよ?! ダメだってば!


俺は…っ そのっ 高い所 苦手 なんだよっ
ぷっ
あははっ
なんだぁ 残念だねぇ 祐一君
うっ うるさい なっっ！
あはは…
あさーー 朝だよーー 朝起きて 学校
あれっ？
今の… 夢?!


GAME
NEW ゲーム
ウィーー
コロン
やったぁ！
よっしゃ！
きゃーん
ありがと
祐一♡
ホラ！お母さん
みてみて
祐一に取って
もらっちゃった
わ〜い♪
あらあら
よかった
わね
名雪
いやあ
この位
朝メシ前で…
もー
祐一ったら
得意に
なっちゃって
おっ
何だよー
起きて間も無い俺を
ムリヤリ連れてきた
くせに〜〜〜
返してもらおうか
なーーー
あーん
やだやだ
ごめんなさーい
ふふふ


あれ？
祐一君達…？
?!
あゆ？
やっほー♡
なにしてんの？
見ての通り
クレーンゲームだ
得意なんでな
うぐぅ
そんなの
見れば
わかるよ…
それよか
あゆは今日は
どうしたんだ？
ん？
ボクはね
今 学校終わって
それでまた
捜し物をしに
来た所なんだよ
え…っ


何だよ前言ってたやつまだ見つかってなかったのか?
あ…うん そうなんだけど
実は…何を捜しているのか
思い出せないんだ…
2人のお友達かしら?


そうなの あゆちゃん こちらは 私の お母さん
あ…っ はっ はじめ まして!
ペコ ペコ ペコ
んと あゆちゃん 捜し物って 私達じゃ お手伝い 出来ないのかしら?
えっ えっ そんな…っ いいんです 有難うございます~
ぱぱぱっ
あ じゃあまた 今度 お願いするよっ
心地いいな
やさしい お母さんと やさしい人達(かぞく)…
今日は 大丈夫だから…
とーなのか 別に いいのた…
うん ありがとお!!


てな訳で今日は帰るよっじゃあね!
たっ
あっあゆちゃん!
よかったら今度ウチに遊びにいらっしゃいね
はいっ♡
では今度!!
まったねー
あれ?そういやこの辺りで私服の学校ってあったっけ…?
今度どこの学校か聞いてみよっと


頑張って祐一君！
わっ
あ、
おうっ！
んー…
タンッ
くらっ
……!!
うぐうっ！
ゴメン…あゆ
いいんだよ祐一君頑張ったもんね！
また日をあらためよ！ねっ？
じゃあ今日はもう遅いからまたねっ！
バイバーイ


取れなくたって
いいのに
祐一君
すごく残念そう
だったな…
ごめんな
取ってやれなくて…
おーい
あゆ──っっ!
ゆ…
祐一君!?
は
よ…よか…っ
間に合…って
はっ
はっ
ガクガク
ど…っ
どしたの!?
まずは落ちついて…
ほら
コレ…
は
あゆ
手出して…


！
ぱぁあああぁ
……
わ…っ どっ どしたの？ コレ!!
取ってきてくれたの？ ねっ ね？
お おう
コホン
あゆにどうしてもプレゼントしたかったんだ


きゃ
嬉しい…! ボク ずっとずっとずっと 大切にするね
ありがとう!!
うん よかった!
…え?
だってさ あゆ… 会ってから ずっと悲しい顔ばかり していたからさ
んで 少しでも 元気になってくれたらなぁって 思ってたから…
祐一君 …ボクね


おかーさん
ひっく
ひっく
おか…さん
きっと一生かかっても悲しい気持ちは捨てられないけど
でも忘れられる事はできると思う
それはね 祐一君がいてくれたからだよ
本当に祐一君のおかげで楽しかったよ ありがとね
そうか よかったね
うん！


祐一君は
冬休み終わったら
帰っちゃうんだよね？
…学校
あるからな
そ…
そだよね
でも また来年
来るぞ
俺は
え?!
約束！
ゆびきり
だよ
え…
えへへ
え…っと
さっきあげた人形さ
アレ 実は
持ち主の願い事
かなえてくれる
人形なんだぞ


あっ今
ウソ臭いって
思ったろ?
コクン
でも
本当に
3つまでなら
願い事かなえて
くれるんだぞ
…願い事
増やしてくれ
ってのは
ダメだけどな
その願いって
誰がかなえて
くれるの…?
俺!
あははは
なーんだ
だから
俺にできない事は
無理だからな
さぁ何でも
言ってくれ!!
……
じゃあね
それなら
ひとつめ…
ボクの事
忘れないで下さい
冬休みが終わって
自分の街へ帰ってしまっても
ときどきでいいから
ボクの事思い出して下さい



それがひとつめのお願いです――――
んん…っ
あれ…？また夢…？
トン
うーん
なんか最近夢見が変なんだよなぁ…
どーも連続で
ぐ…っな何やってるんだ…？
キーーーン
不意打ち大ダメージ


コラア!
まった何か
やったのか
真琴は?!
ちょっとは
大人しく
できないのか
……って
わーーっ
これは
何だ?
名雪
なに
言ってるの?
あゆちゃん
だよ…祐一
忘れちゃったの…っ
はーいっ♡
この間 秋子さんに
「遊びにきてね」って
言われたので
きてしまったの
でした――!
……………


じ…
じゃあ
くらっ
この部屋の惨状は…？
ぐちゃ……
ん…とね 今日まだお母さんが起きてなかったから待ってたんだけど…
そしたらね あゆちゃんが食事作って…
えっへへ——
ボクが作ったんだよ～
えらい？えらい？
ほーら このトースト美味しそうだと思わない？ 祐一君
思わない！
つかソレ食物じゃないし


ええ〜〜〜〜
そんな事
言わないで
騙されたと
思って
一口でも…
いらん
ちゅ——に
ねー ねー——ってば
ちょっと位
いいじゃない
ケチケーチ
くい くい
う——
ワン！
ワン！
ワン！
キャー
わぁあん
秋子さんに
言いつけて
やる——
ぴゃ——ん
フン！
祐一も大人気
ないんだぁ
なにおう！
おまえら
他人事だと
思いやがって…
だって
あんな
イカニモな
毒物をだなぁ…
うぐうっっっ


早く！秋子さんが倒れて…
秋子さんがどうしたって？あゆ!!
あ…うっっお母さんみたいにまた……
恐いようっ祐一君…!!


大好きな人がまた
いなくなっちゃうのは
嫌だよ…っ
あゆ！
秋子さん…
お母さん
みたいに
いなくなっちゃうよ
こわいよ
ボク…
こわいよ…っ
落ちついて
あゆ…
こ…わいよ…
ひっく
う…っ
ゆ祐一…
ど…どう
したら…
あ…と まずは
行ってこい
名雪
こっちは
いいから！
真琴も！
うん!!
大丈夫だ
あゆ
俺が
いるから


だから
安心してろよ
な
あゆ
7度8分
お母さんが
倒れた原因は
風邪みたい
という訳で
みんな安心して
いいよ
あゆちゃん
もね!
大した事
なくて
よかったぁ…
ほーーっ
ったく
あゆが大騒ぎ
すっから
いけないんだぞ
ポカ
だって…
うぐぅ〜〜



あ あの…
ごめんなさい
ううん！
大丈夫だよ
！
ぽんっ！
あ そだ！
よかったら
世話するの
手伝って
くれるかな…？
私だけじゃ
心細いし…
うん！
するっ
するよー!!
ありがとー
私も！
ありがとう
よかったね
ざく
ざく


ん…
あら
くったり…
Z
ス。。。
祐一君
ちょっと
いいかしら？
ひょ
！
もう
起きあがって
平気なん
ですか？
ええ
眠ったから
もうかなり
良いみたい
ありがとう
そのかわり
あゆちゃんを
疲れさせちゃった
みたい
上につれてって
休ませて
あげて
ぐー
本当だ


秋子さんの事 本当のお母さん みたいに心配して いたからなぁ
よっこらせ
あら まぁ
ふふっ
嬉しいわ うちに いい子が いっぱいいね
……――どもです
じゃ おやすみ なさーい
秋子さんも 早く休んで 下さいね
はいはい
すぴ
すぴ
真琴の おへ
パタン
だって 俺の所じゃ マズイしね…


ガチャ
祐一の部
コンコン
お起きたか
秋子さん
もう平気だぞ
聞いた
～～～～
うっ…
うぐ…っ
お世話してたのに
気付いたら
逆転してたよ
気にしなくて
いいんだよ
そういう人達
ばっかだからさ
この家は
しょぼぼぼぼぼ
うん



みんなすごく優しいよね
ボクにね ずっと家に居ていいよ…って
みんなが言って……
ぽたっ
あ…れ？
あゆ…？
あれ？ どうしたんだろ
ボク… ボク？


あゆ どうかしたのか
また恐い事でも思い出したのか? ホラ
フル フル フル
あのね… ボクは
お母さんが帰ってこなくなってからね


ずっと一人
だったから
かなぁ…
この家で
家族みたいに
暖かく接して
くれたから…
それが
いいなぁって
思ったら…ね
そしたら
…変なの
悲しくないのに——


う…っく
うぐぅ…っ
!
ひどいよ
後で洗ってね…
ごめんね
汚しちゃって
いいよ
いいよ
ごし ごし
大丈夫
だからさ
あゆ
みんなの
優しさが
うん…っ


あたたかくて
ものすごく
心地いい
ボクにも
そんなあたたかさに
触れられる日が
くるなんて
も…もう
ちょっとだけ
こうしていて
祐一君
本当に
ずっとずっと
考えもしなかった
から――
よしよし
あゆは
いい子だねー
もう
一人ぼっちじゃ
ないからなー
うぐぅ…
コドモ
扱い…


嬉しかったんだよ
でも いいや
気持ちいいもん
くぉ くぉ
泣いたり
笑ったり
変なやつ…
ぐふ ぐふ ぐふ
翌日
昨晩 廊下で
何してたの？
あー！
しーっ
しーっ
あ、あのっ
別に
やましい事は
何も…


チュン
チュン
秋子さんさ すっかり元気になって よかったよ
あゆの おかげかな？
え…っ
そうかな そうかな？ えへへー
だったら ボク 嬉しいなーー
ーって アレ？
そういえば 名雪さんは…？
あいつは 部活の朝練で 先に出かけたよ
名雪って ああ見えても 陸上部の 部長なんだぜー
部長だお
へー！偉い人 だったんだぁ
あいつの事だから そんな事 ないと思う…
もう見えないけど


あはは
そんな事ないよ
少なくとも
祐一君よりかは
エライと思うよ
たっ
ったく
変な奴…
ほたたた…
あーんな
ヘンテコな
鞄持ったり
してさ
やつあたり
でも
そんな変な奴に
フォローされてる
名雪って…
ぷぷぷ
？
ほらほら
早くー
なあゆ
その鞄の中って
何入ってんの？
えっ?!
何
いきなり!?
あ！さては
何かHな事
考えてるんでしょー？
ふぁ…
祐一君の
エッチ～
ポカ☆
単に
興味だよ
ちぇーー
ENGLISH
んっ…とね
教科書とー
ノートと… あと
筆記用具とかー
友達に借りた
CDとか
雑誌とか…かな
なんだ…
普通で
つまらないな
万引きした鯛焼きとか
入ってるかと…
う…
うぐう


ふっ ふーんだ! 普通で結構ですよーーだ!
あ…っと じゃあね 祐一君!
ボクの学校こっちだから
祐っ、
お… おう
……
なっ 何!?
あゆはいいよなぁ 私服の学校だと何かと便利でさ …と思って
うしし…
あはは 祐一君 何かよくない事 考えてるでしょ?
そうだ? 祐一君 ボクの学校に 転校してくれれば 良いんだよ!
そ そっか! いいなぁ その案 そっちのが自由で 良さそうだしな…
じゃあさ 今日 案内してくれよ
揺れる心
コラ!


えっ
ええっ!?
俺 学校終ったら 駅前のベンチで 待ってるからさ な?
よし! 今日は 特に予定 ないし…
ちょ～っと 本気だ～ 祐一君……
そんじゃ 放課後なー
あ!
う… うん またね!
………
も～
強引だなぁ もう～～～
エヘヘ
でもね
はっ
今日 もう一回 祐一君と一緒に いられるのは――
わーん やだー
ちこく ちこく―


すっごく
すっごく
嬉しいな
地下鉄
のりば
悪い！あゆ
遅くなって!!


ううん
大丈…夫
わーっつ
やベ!!
怒らせちゃった
かも!?
あ
あのさー
もしかして
俺
怒らせ…
ちゃったかな?
!
あっ わわわ
ち 違うよ
違うんだよ
あの…あのね
つん
つん
ボク…初めての
デートだから
緊張しちゃって…
それでね
変…なのかも
変で
ゴメンね
でーと!?
そっ そそそそ
そ…そっかぁ
いや その…まぁ
普通にいこーぜ
フツーにさ!
ちーん
なんか調子狂うな…
フッ…!
んと
じゃあ
手ぇつないで
いこ!
ええ!?


かー…
割とダイタンなんだな…
よし！
んじゃ早く行こうぜ
そい
あ…
まっか！
…うん！
パーフ
——ってさ
えらく不便な所にある学校なんだなー
お前の学校って
な？
………
うん…
そだね


とーだね…って
このままじゃ
遭難しとうで…
なぁ
道間違えたり
してないのか?
本当に
こんな所にさ…
ー!
あ… あるもん!
絶対
あってるもん!!
今日だって
この先に…
あっ
あゆ…
!!
あ………


ドクン
何も
……れ？
ドクン
ドクン
ドクン
ウソ…
ない
ドクン
おい！
あゆ
どうした!?
ビク！
ザザァァッ
な…無いの
学校が
ど…してだろ？
祐一君


だって…本当にさっきはあったんだよ?
ボク嘘言ってないよ!
あゆ……?



そ…だよ
ちゃんとここでボクは…！
―――― そう　知っている
ボクが　ここにいた事を　そして……


そして　雪の上の
赤い血を ――――――――――!
――――っっ!!


どうして…ぼくはここにいたらいけないの…？
あゆ…？
どうした？
あゆ？
…そうだリュック



探さなきゃ
ボク探さないと…
――なきゃ
探さ…なきゃ
ぽふ
あゆ？
おい
大丈夫か？
さく



探さ…
あゆ！
待て おい！
あゆ


は
いったい
何が
どうなってんだ
は
は
存在しない
学校
みつからない
探し物…


どうして
あゆは…
はっ
はぁ
は
ふ
は
はっ
どこだ？
ここは…
はっ
いや
それよりも
あゆは…
ザクッ
ザクッ
サク
ひっっ
ドキッ


…っと
ビックリ
した——
ドキ
ドキ
ドキ
ザッ
サッ
何の音
だよ…？
ガッ
ザッ
あ…ゆ？
サク
ザッ
サク
ザッ
サッ
あゆ……


忘れ物だぞ
ほれ
……
プイ
よっこらしょ
ざく ざく
ざく ざく ざく ざく
なあ 何してんだよ こんな所で


…探し物だよ
ここに埋まってるのか?
サク
――っ


うん
サク
ザ
ザッ



ゆ…
祐一君?!
2人で探す方が早いからさ
さっさと片付けようぜ
ざっく
ざっく
ざっく
ざっく
もー
かなりちぶいしさ…
ん
そだね
あ！
お前ハナに土ついたぞ
わー
ありがと…

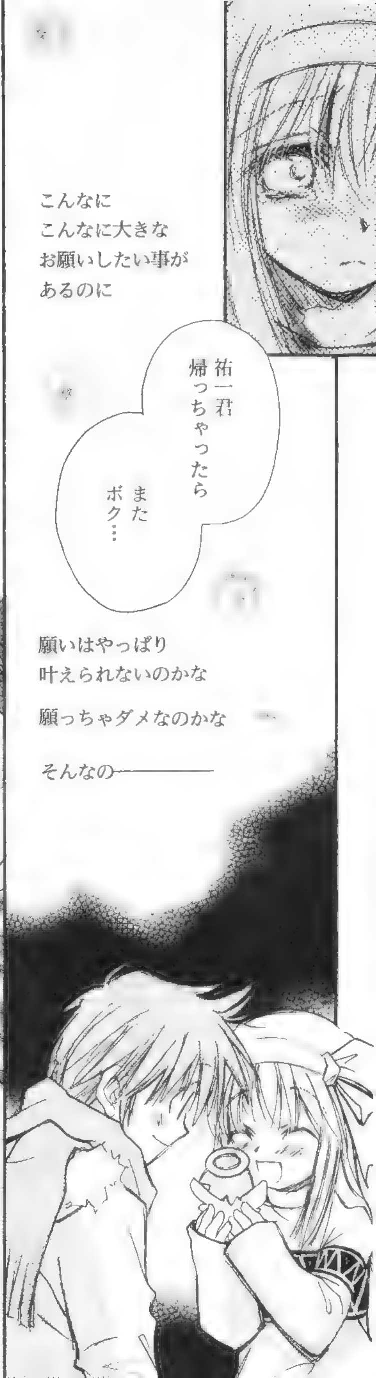

ゴメンね 祐一君
ザッ
サク
ザク
ザクッ
ザッ
いいって この位 どうって事ないよ
うん でも…ね
サッ
サク
もう…ね 会えないと 思うんだ
せっかく…再会 できたのにね
ご…めんね 本当に
おっ おい! また何を


言って…―


ね あと2つ残ってるんだよね お願い
この人形にお願いしたら祐一君は帰らない？
………
言っただろ？俺に出来る事だけだってさ
うん …そっか
じゃあ！じゃあさ 今日だけ祐一君と同じ学校に通いたいよ…！
こんなお願いは…ダメ？
………


指きりして 約束してくれた
願い事 叶えてくれるって約束
ボクの願いは特別なモノじゃなくって
ただ…ほんのちょっとだけでいいから
祐一君と――
よし！じゃあ 今から ここは 2人だけの 学校だ あゆ！

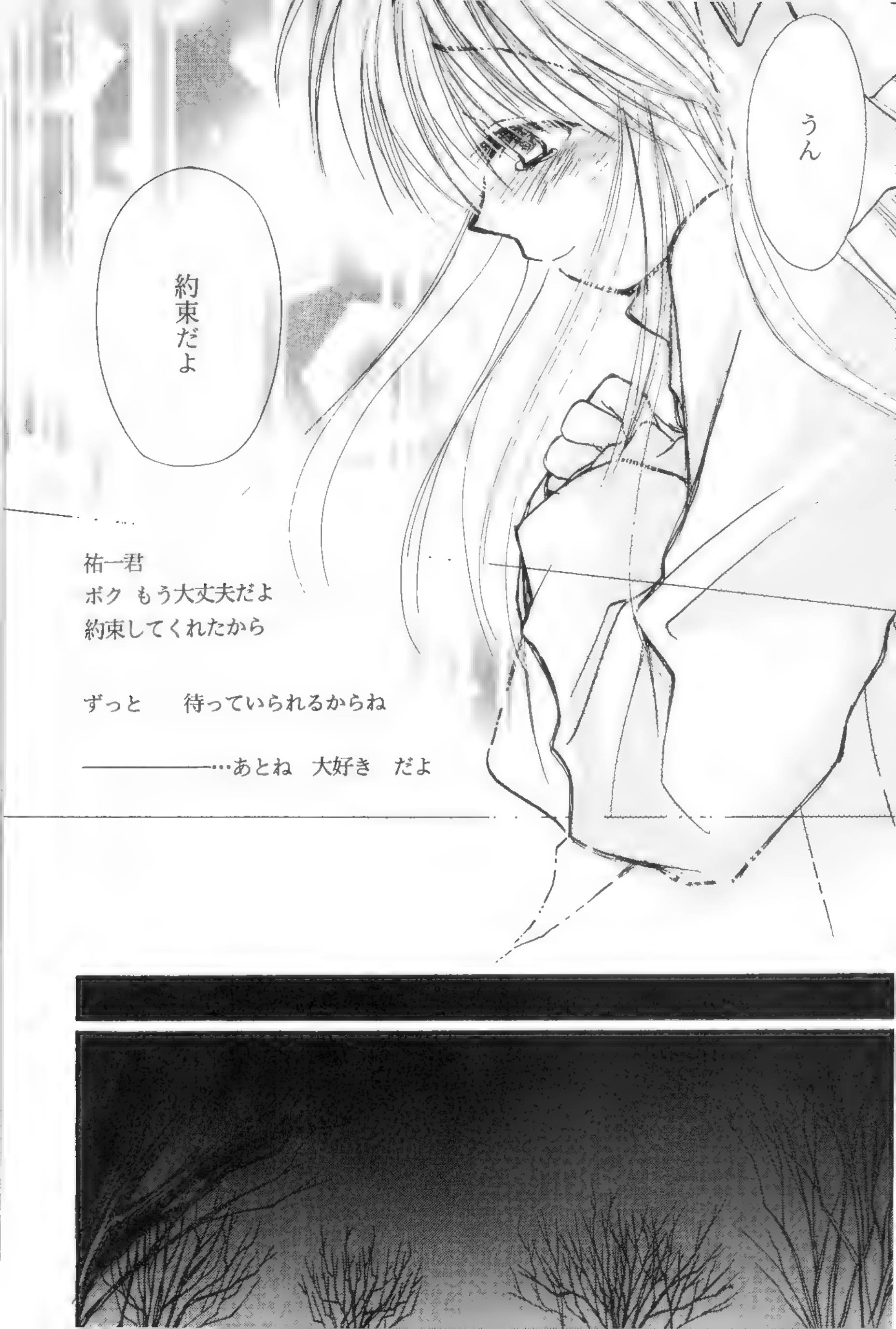

え…っ
厳しい校則も決められた制服もない自由な学校だぞ
校則
第0条
わぁ…うわぁ…
え……っじゃあ自由って宿題もテストも?!
モチロン無し!!
わーい!嬉しいよー
あ!給食はタイヤキがいいな
…ま自由だからいっか
ぴょこ
ぴょこ
くるん
あははそうだよねボク達の学校だもんねー
まぁね
2人きりの学校…
…っ
しゅん…


こんなに
こんなに大きな
お願いしたい事が
あるのに
祐一君
帰っちゃったら
また
ボク…
願いはやっぱり
叶えられないのかな
願っちゃダメなのかな
そんなの――――


大丈夫だ
あゆ
俺はまた
この街に
戻ってくるよ
ポフッ
そしたら…
そしたらさ
この学校で
待ち合わせ
しようよ な?
じわぁ



うん…うん!
ぼろぼろっ
ホラ
指きり…
約束だよ
祐一君…
約束だよ
うん!
ぱしっ


うん
約束だよ
祐一君
ボク もう大丈夫だよ
約束してくれたから
ずっと　　待っていられるからね
————…あとね　大好き　だよ


ゆ…っ 祐一君
コワイよう〜〜
ここ…
どこ？
すっかり暗くなっちゃって道もよくわからなくなってるからな…
どどこなんだろうなぁ？
どっぷり…
え——?!
どどど どうしよー！
2人して遭難しちゃうの?!
死んじゃうかもなの?!
約束守れないかもなの?!
まあまあ そんなすぐに悲観的にならなくても…
だって本当に危ないもん！
それに——
どうした？
あそこの光…
——街灯だよ


ガサ
ガサッ
とうッ
パン
パン
――でも
ここ どこだろ?
パン
うーん
とりあえず
人のいる様な
方向に向かって
行けば
なんとか
なるんじゃ
ないかな…
そだね
キラン
あれ…
何だろ?
瓶だ


ふふっ カワイイね コレ
もーらった!
くる!
ねっねっ タイムカプセル作ろうよ!
は?
このビンで♡
タイムカプセルって…何入れるんだよ?
俺も何も持ってないし…
ん? この人形だよ
えっ? でもまだ一つ願いが残ってるだろ?


ボクはもう
二つかなえて
もらったから
充分だよ
だから
残りの一つは
未来の自分…
もしかしたら
自分じゃない
他の誰かに
贈ってあげたい
なって
よし！
じゃあ 早速
埋めるか！
うん！
ザクッ
ザク
――ってさ
やろうって言ったけど…
でも…あの…
気になったんだけどさ
この願い
かなえるのって
俺なんだよね？
もしかして もしかして
ザク
ザクッ
サク
…頑張ってね
………
やはり…
ね♡


ふーっ
終わった
終わった！
おつかれ
遅くなっちゃったね
祐一君の事
皆 心配してるね
きっと…
ん まぁ
大丈夫だよ
…男だしね
それよりも
あゆこそ
早く帰らないと
うん…
そうだね
ありがとう
そうじゃなくて
ええと
早く聞かなきゃ…
祐一君
明日も…っ
会えるよね？
ボクね 朝
待ってるから？
早く!!
あ…っ
あのねっ
あの…っっ
転校する
祐一君の
お別れ会
だよ!!



ふ〜
はふ
は
――――言えた…!
はぁ
は
ふ
わかった!明日学校で!!
うん学校で!
ゴシゴシ
じゃ指きり!
ぴしっ!
えっまた?!手ぇ汚れるぞ
でも指きり!!
はいはい
また 明日も 一緒にいようね――――


祐一
元気ないねぇ
ねっ 今日は
私部活ないから
一緒に
帰ろっか？
…………
名雪… 今度
イチゴサンデー
おごるから
今日は俺に
付き合って
くれないか？
人手が
いるんだ
俺一人より
多いほうがいい


じゃーん
エヘン
………
ああのな
名雪
いくら人手
いるからって
何もこんな…
ヒソ
ヒソ
ヒソ
えー?!
だって祐一
友達
少なそう
だから…
ケロリ
!
ギーッ!!
言ってはならん事を~~!
ああ~ん
痛いよーー
びよーん
そうよ
相沢君


名雪の人望に感謝すべきよ
えへん!
わっ 私もそう思いますっっ 祐一さん!
だって悪いじゃんか…自分のワガママに付き合せて
でも…でもだからさ…
もう! 何言っているんですか 祐一さん!!
キュー
あははーっ
困ってる時はお互い様ですよー
そーだそーだっっ
コクン
みんな…


！
うぶっ
相沢！
呼ばれて来てみれば貴様～～～！
いつのまにこんな美味しい役になったんだ？
き…北川っ?!
くっそ～俺に無断で～
俺にも紹介しろっつの！
ひでで…
ちっくしょー どいつもこいつも
わわかった ギブギブ!! 紹介するって！
よっしゃ！
いいやつばかり揃いやがって… 嬉しいじゃねーか


おお、心の友よ～
がっし！
2人共一生懸命何の話してるんだろ？
…きっと聞かなきゃよかったって話よ
……
？
──それで
私達は何を捜せばいいの？
天使の人形だ
ガラスの瓶の中に入っていて──
それがこの場所のどこかに埋まっているんだ
ええ?!



どこかって……
どこかって……
ねえ…?!
なんかものすごい事言ってねえ?!
無視
どこかには必ずあるんだな?
間違いない
じゃ 佐祐理と舞はあっち側から順番に捜してきますね
私と栞は反対側行くわ
いってきまぁす
そしたらうちらはこっちの脇の道行こ!
うん!
あ!倉田先輩オレも同じ所行きますよー!
まってー
ぴょんこ
ぴょんこ
!


ボコッ
だだだだだっ
栞 行きましょ！
はえ〜〜
くくくっ
いやいや
笑っちゃ
イカン
ばっ
みんな！
ありがとな
絶対
みつけようぜ！



あ———ん もうダメだぁ
暗くて みえないよ
もう… さすがに 懐中電灯がないと 無理だね
そっか…
祐一…
——じゃあ みんな
みつからないんじゃ 仕方無いよな…
もう…
あ！あの コレじゃ ないですか？


すげぇ！みつかったのか?!
やったねーー！
はは はいっ
汚れてるけど天使っぽいよ きっとコレだよ
でかしたー栞ちゃん!!
わーっしょい
わっ
わっ
きゃ
ハラハラ
病気なのに……
みなさんっっ なな…何するんですか?!
ぜーっ
ぜーっ
ゴメンゴメン つい嬉しさの反動で…
はっ
あ じゃあ気をとりなおして…
はい どうぞ 祐一さん


あーあ
こんな姿に
なっちまって
うん
…これだよ
随分
みっともない姿に
なっちまったけど
みんなのおかげで
見つけられたよ
久し振りだな
お前
ありがとう…！



──翌日
私が直したんだよ──♡
お前はずっと待っていたんだな……


俺も
ずっとここで
待っているよ
ゆーーいーち
くーーん!
たったったっ
あゆ?!
しーーん
あははっ!
こっち
こっち!
オロ
オロ


?!
お——い♪
えへへー
ビックリ
したでしょ?
だって祐一君
最後の日
なのに
遅刻
するから——
——っ


ドーン


……
……
……
――あ…ゆ？


ドクッ
あゆ！
おいっ 大丈夫か?!
あ……ゆ
あゆ
は
あゆ！
は、
は
あ……れ？
あゆ
どうして 祐一君 泣いているの？
…何か ボク 悪い事 したのかな
ええと… 確かボクは
祐一君と ここで 待ち合わせを していて……


ああ
そうか
思い出した
はっ
ゆ…いち
くん……
はっ
あは…は
落っこちちゃったよ
ふ
はぁ
ドジ…だね
ボク……
はっ
そっ
あゆ
しゃべるな
今病院
連れていって
やるから
ふ
ふぅ
はっ
は
はっ
ね祐一君
また
ボクと遊んで
くれる？
ふ


約束…してやるから
…だからしゃべるな
ヒック
約束するから
ん…だったら
ゆび…きりしよ
はぁ
祐一君
手…


ああ
うん
待ってろ今
してやるからな
よいしょっ
ほら
見てみろよ
あゆ
これで
指切りだぞ
うん…！
約束 だよ
よし！じゃあ
指切らないとな


!
あゆ……？
なぁ……あゆ
ぐすっ



一緒に指切りしなきゃ
指切りにならないだろおっ
ほろほろっ
ほら……あゆ
一緒に……
――指切り



サクッ
!?
…ありがとう
忘れ物
みつけて
くれたんだ…


サク…
サク…
遅刻だぞ
あゆ
今日は
日曜だよ
…学校
休みだから
——そう
だったな


なあ
…本当に
おゆ
お別れなのか？
……うん
ずっと この街にいる事はできないのか？
……うん
本当の本当に？
…うん
――そうか
…うん


だったら せめて
最後の願いを
言ってからに
しろよ…
約束したろ？
3つだけ
なんでも願いを
かなえるってさ
2人で
約束した
3つの願い
そ…だったね
その最後の
ひとつを――
――っ
お待たせ
しましたっっ


それでは
ボクの最後の
お願いですっっ
えへへ
祐一君——
ボクの事
忘れて下さい



ボクなんて
最初から
いなかったんだって
ね？
そう思って
下さい…


だからね
もう
ボクの事
うぐ…うっ
わっ
忘れて…っ
祐一君
ひ…
グスッ
…あゆ
グシュ
ひっく
だって……
ひっく
うぐ
もう… ボク
お願いなんて
ない…もんっ
ふ


うぐっ
ほ…ホントは
もう食べられない
ハズだった
たい焼きも
いっぱい
食べられたし…っ
うっく
あゆ!
本当に…
うくっ
んぐっ
本当に
それで
いいのか?


あゆの
願いは
俺に忘れて
もらう事
なのか？
こうやって
このまま
――本当は


ひぐっ
ひっく
祐一君と もっと… 一緒に いたい
ずっと一緒に いたいよう……
うぐっ
ひっく
こんなお願い いじわるかな…?
ふ
祐一君…


ね……
祐一君
グス
ボクの体
まだ
あったかいかなぁ


当たり前だ
きゅっ
よかったぁ


よかった……！



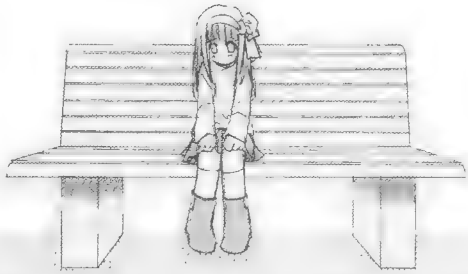

まるで
最初から
何も存在
していなかった
かのように
ここには
誰の姿も
ぬくもりも
消えて
でも
これだけは言える

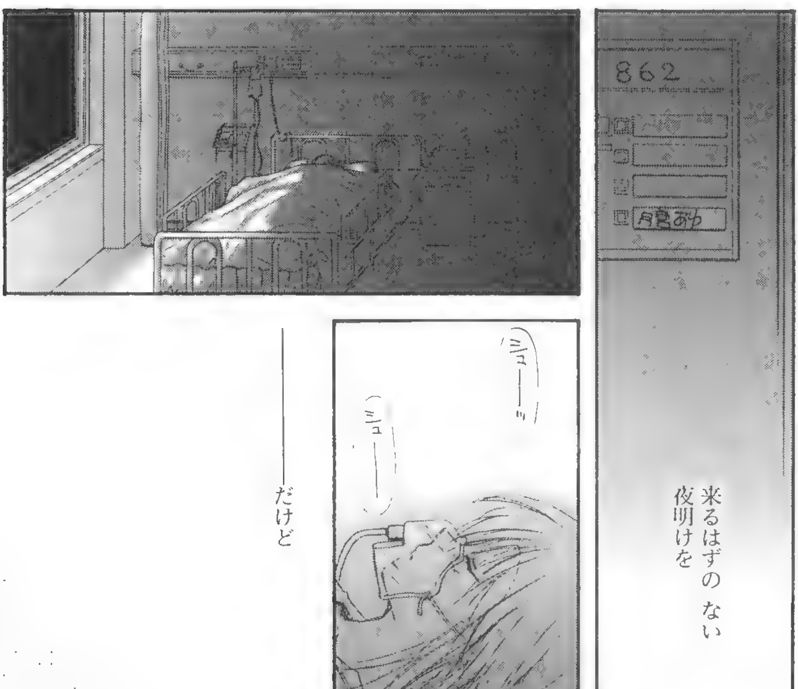

最後のあゆは
間違いなく
笑顔だった


そうだよな
あゆ

音の無い雑踏
誰も たった一人で
ベンチに座る子供の姿なんか
気にもとめない
そんな中 ボクは人を待っていた

もう 会えないと
分かっている人を
何年も
繰り返される夢の中で
ずっと ずっと
ひとりぼっちで 待っていた





——だけど


こらっ
祐一ってば！
今はっきりと見たもんね！
ツマミ喰いしちゃダメだよー
だって…さっきから腹減ってさー
水瀬家の昼食
そしたら祐一も準備するの手伝って？
みんなでやれば早くお昼の支度ができるんだから
ホラ食べた分はちゃんと補充してきてね
はーーーい
調子良いんだから ホントにもー
ブー


あーあ…
こんな事なら
大人しく
待ってるんだったな
留まる事なく
季節は流れていた
街を覆っていた雪は
その姿を隠し――
大丈夫
かしら？
よ…っ
ぐに
ぐに
ぐに
むむむ
あーーっっ
ボキ
俺は…チーチク
ひとつロクに
作れないのか……
祐一さん
後は私が
やりますから
いいですよ
スミマセン…
カリッカリ
冬の寒さを…
雪の冷たさを
忘れそうになる位


あーあ…秋子さんにフォローさせちゃった
コン!
ヘンタイ
バカ孩
アホ
食いしんぼ
カチーン
コラーー!バカっていうなぁっっ!
キャーッ
あの日々は遠い思い出の彼方だった
あうーーっ
ゴーー
あーもうまた2人ケンカしてー
ところでーー
祐一さん


今朝のニュースで言ってたんですけど
知ってますか祐一さん?
えっ? …なんですか?
昔 この街に立っていた
大きな木の事
昔ね その木に登って遊んでいた子供が落ちて
同じ様な事故が起きるといけないからって切られたんですけど
……え?
ドキ…ン
その時に木の上から落ちた女の子――


7年間
戻らなかった
意識が
今朝
戻ったんですって
凍った
思い出が
溶けるように
その
女の子の
名前がね
たしか——
新しい季節が
動き出すように——
本当に
どんなお願い
でも いいの？
ああ！
モチロンだ
本当に
ほんと？
本当に
ほんとだ
本当に
本当に
ほんと？
本当に
本当に
ほんとだ


――だったら
ボクの……
お願いはね…
あゆ
ゆっくりと
夜が白み始めていた



遅いなァ
スル
うぐぅぅ
ぐぐっ
う〜〜〜っ やっぱコレ… 気になるよ〜〜〜
うんしょ
うしょ
ずっ
わっ!
……
うぐぅ〜〜っ
なんだなんだ
よぉ 不審人物!


——祐一……
お…う 遅いよっ 遅すぎるよっっ！
…悪い ちょっと 遅れた
そっ それにねっっ ボクは不審人物じゃ ないよっ！
いや どこから見ても 不審だったぞ
どこが?!
全部！
が——ん
うぐぅ～～っ そんな事 ないもん……
あわわ あまりいじめると ヤバイな
うぐぐ
そっ それでさ どうしたんだ? 新手の イメチェンか?


違うもんっ!
プイ
あ むくれた
だったらどうしたんだよ?ん?言ってみ?
…笑わない?
絶対に笑わない
…ホントに?
どんな事があっても!決して笑わないって約束する
………
すっごく嘘っぽいけど…でも…うん約束だよ?
こんにゃろ…
俺はこう見えても約束は守る方だからな!
約束
うんそだね
あのね ええと実は……



わははは
床屋でめいっぱい切られたって——?!
うぐぅ〜〜
ひどいよ 絶対笑うとは思ってたけど いじわる——!!
その歳で床屋なんか行くからだろー?
つん!
うーーっっ
だって ボク 床屋さんしか行った事ないもん
どよん
うーん
じゃあ 今度名雪にどこか連れていってもらえよ
そしたら大丈夫だろ?
ものしりさん
うん… そうする
うぐうっ ど どこに!?
百花屋
よし! じゃあ そろそろ行こうか
ポン ポン
えっ?


ええっ なんで?!
皆…待ってるんだ
…その 実はさ 以前皆に手伝ってもらって そのお礼におごる約束したもんだから…
まだですか〜 祐一さーん
卒業…しちゃったけど…
※祐一ビジョン
お金足りるかしら…
楽しみです。
あはは——っ
そ…そうなんだ
よし!
わかった! そういう事なら 皆の所に行こ?
んでもって ボクにも おごってね♡
モリモリ食べるぞう〜
わ〜〜っ
せ せめて一皿にしてくれ〜 マジピンチなんだよ 人数多くてさー
あゆ様ー
仏様
あはは、冗談だよー 安心していいよーだ
ああっ このやろ! まてっ
くるりーん
やーだ よーだっつ


とまっていた　思い出が
ゆっくりと　流れはじめる
まて、


たった ひとつの
奇跡のかけらを
抱きしめながら

DENGEKI COMICS

Kanon—カノン—②

2002年8月15日　初版発行

原作	Key
作画	森嶋プチ
発行者	佐藤辰男
発行所	株式会社メディアワークス　〒101-8305 東京都千代田区神田駿河台1-8 東京YWCA会館 電話03-5281-5215(編集)
発売元	株式会社角川書店　〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3 電話03-3238-8605(営業)
カバー・本文デザイン	シイバミツオ(伸童舎)
装丁	朝倉哲也 (design CREST)
印刷・製本	凸版印刷株式会社

初出／コミック電撃大王2000年12月号～2002年7月号(メディアワークス刊)

ISBN4-8402-2130-8 C9979

コミック最新刊!

電撃コミックス(B6判並製)2002年7月現在



僕と先生の加速が始まった——

おねがいティーチャー①

原作/Please! 作画/林家志弦 定価:本体550円

©Please//バンダイビジュアル

大人気恋愛SLGを公式コミック化!

こみっくパーティー①

犬威赤彦 定価:本体550円

©2001 AQUAPLUS





それが世界の選択である——

ガンパレード・マーチ①

原作/ソニー・コンピューターエンタテインメント 作画/さなづらひろゆき 定価:本体600円

©2000 Sony Computer Entertainment inc.

雪景色が彩る少女たちの物語

Kanon 全2巻

原作/Key 作画/森嶋プチ 定価:①巻:本体550円 ②巻:本体600円

©Visual Art's/Key



最先端コミック世代に贈る
ハイクオリティコミック誌

毎 月 21 日 発 売 !

月刊コミック電撃大王 DAIOH



◀イラスト/かわむらやすひと

発行●メディアワークス　大王HP●http://mediaworks.co.jp/special/daioh

ISBN4-8402-2130-8

C9979 ¥600E

雑誌49054-73

DENGEKI COMICS

発行●メディアワークス

定価: 本体600円 ※消費税が別に加算されます

)221306

1929979006006

